

練馬区子ども読書活動推進会議(第13期第一回)要録

日時：令和7年11月21日（金） 午後3時から午後5時まで

場所：光が丘図書館2階視聴覚室

●参加者

出席委員：林座長、木村副座長、仙田副座長、工藤委員、相澤委員、
遠藤委員、内田委員、佐藤委員、渡邊委員

欠席委員：坪倉委員、慶野委員、中村委員

事務局：小原光が丘図書館長、押田子供事業統括係長、同係 和田、塚越、山口
教育指導課 サポート人材推進係 佐々木

その他：傍聴人 0名

●議事等

委嘱式

1 開会

2 練馬区子ども読書活動推進会議第13期座長、副座長の互選

3 練馬区子ども読書活動推進会議第13期委員について

4 議題

(1) 練馬区子ども読書活動推進会議の概要について

(2) 中高生事業の実施について

5 その他

6 閉会

【配付資料】

資料1 練馬区子ども読書活動推進会議（第13期）委員名簿

資料2 練馬区子ども読書活動推進会議設置要綱

資料3 練馬区子ども読書活動推進会議の概要

資料4 中高生事業の実施について

●会議要録

○事務局

ただいまより、第13期第一回練馬区子ども読書活動推進会議を開催します。本日は、座長および副座長の選出が終わるまでは、事務局が進行します。本日の欠席委員は、3名です。傍聴者はありません。

それでは、次第2の「練馬区子ども読書活動推進会議第13期座長、副座長の互選」に移ります。座長に立候補もしくは推薦されたい方はいらっしゃいますか？

(林委員が座長に推薦され、会の上承を得た。)

(林座長から木村委員と仙田委員が副座長として推薦され、会の上承を得た。)

○座長

この度は、座長に推薦いただきましてありがとうございます。前期に引き続き、みなさんが発言しやすい会議を目指して頑張ってまいります。

それでは、次第3に移り、各委員から自己紹介をお願いします。

(各委員から自己紹介を行った。)

○座長

次に、次第3の議題2に移ります。当会議は、資料2のとおり区の上綱に基づき設置されています。この会議の役割等も含めて概要を事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

○座長

ただいまの事務局の説明や本会議の進め方等について、ご質問等ございましたらお願いします。

(一同質問等なし)

それでは、議題の2「中高生事業の実施」に移ります。資料4について、事務局からご説明願います。

(事務局説明)

○座長

中高生の事業について、事務局から説明がありました。ご質問やご意見がございましたらお願いします。また、中高生の読書活動の推進や来館者増に向けて、どのように取り組んでいくべきか、ご意見がありましたらよろしくお願いします。

○副座長

資料4の3「中高生POPコンテスト」の実施結果の中に赤字で「参加依頼にあたり学校訪問も実施」と書いてあるのですが、これは、光が丘図書館職員が学校に出向かれたのでしょうか。また、生徒たちにお会いになったのか、それとも学校の先生にだけに計画をご案内したのでしょうか。

○事務局

学校訪問につきましては、毎年4月に、小中学校には必ず訪問をしています。高校については今までなかなかできていなかったことがありましたが、今回のPOPコンテストにあたって、区内の都立高校4校を訪問して参加をお願いしました。

訪問の際は学校図書館を見学させていただきました。今回は生徒さんと直接話す機会はありませんでした。

○副座長

では、先生から生徒さんに光が丘図書館ではこのような計画があるということを伝えていただいた結果、POPがたくさん集まったという流れでしょうか。

○事務局

お見込みのとおりです。石神井高校では、学校図書館にちょっとした休み時間にも生徒さんが本を読みに来たり、勉強をしに来たりとすごく活用されていて、そちらの生徒さんからの応募がありました。

○副座長

石神井高校の図書館がよく利用されていた理由はあるのでしょうか。

○事務局

石神井高校は学校図書館司書が2名おり、登校時から下校時まで図書室を開放していて、休憩時間や自習時間に生徒が来るという、いつでも受け入れ可能な体制をとられています。生徒たちも空き時間ができると図書室にきて友達と喋りながら本を読んだりするなどしています。この体制ができるにあたって、学校図書館の先生がとても熱心で、今年度については、東京都の「インクルーシブな学び」プログラムでりんご

の棚の設置を推進しているNPOを招いて、実際にバリアフリー資料の展示を行ったり、リーディングトラッカーを作ったりなどのワークショップを学校全体で行っていました。図書館からは布の絵本等の団体貸出という形で支援いたしました。ワークショップの開催にあたって、学校図書館の先生だったり、養護の先生であったりが主体的に動かれていて、読書活動推進にとっても熱心な学校であると印象を受けたところです。

○副座長

そのような情報を他の中学校、高校に広げるという必要はないでしょうか。

○事務局

そういう学校が増えてほしいと考えています。学校によっても特性がありまして、近隣の学校ですと、ネパール語や中国語など、日本語があまり得意ではない方が非常に多い高校もありまして、そういう学校では学校図書館になかなか来てもらえないという話を聞いております。学校図書館の方もそういう生徒向けに、外国語で書かれた漫画などをいろいろ整備したりして工夫はされていますがなかなか利用が増えないという話を聞きました。何らか図書館として支援ができるものがないか考えています。

○副座長

外国の方が多いといったときに、保護者がそういう問題にどのくらい自覚的であるかということも大きく、保護者を巻き込んでいくことが必要なのではないかと思います。例えば、小学校の1、2年生ですと、自分の居場所がここにあるということを自分で発見したり、見つけていくのは難しいところがあると思いますが、そういう意味では保護者への啓蒙というのを考えて工夫されると良いと思います。

○事務局

保護者への啓蒙というところで、支援が必要というご意見ありがとうございます。小中学校については、学校図書館だよりなども各学校で発行していて、保護者が見て読書に関する関心をもってもらったり、子どもへの働きかけというのを期待しているところです。今まで、高校に対しての働きかけは十分でなかったので、何ができるのかを含めて検討いたします。

○委員

母国語に寄せたものばかりでなく、日本語習得の支援も必要と思います。日本に来たからには日本語をある程度覚えてもらわなくては生活に困ると思います。絵本を通して平仮名などを学んでもらう講座を図書館で開いたり、学校にやさしい絵本を置い

てもらふなど。よく外国の方で日本語を学ぶために漫画を読む人がいますが、日本に住むにあたっては日本語を覚えなければいけないため、そこも考えた方が良いと思います。

○事務局

石神井高校のバリアフリー展示では、やさしい日本語で書かれた文芸書のようなものも紹介されていました。子ども向けに絵本として書かれているわけではなく、文学作品をわかりやすい言葉でリライトされたもので、光が丘図書館ではまだ所蔵がないような種類の本でしたのでとても学びがありました。今後所蔵していきたいと考えているところです。

○座長

中学生や高校生になると、自分の成熟にあった関心のものに接したい、でも、言語レベルがどちらの言語でも中途半端になってしまっているという状況にある中、リライトされた文芸書というは大変興味深く感じました。

中学生、高校生の図書館の利用率が下がっていることや、貸出冊数がコロナ禍以降下がっているところも含めてご発言ありますか。

○委員

活字離れはとても大きいと感じています。中学生になると部活動や習い事があつたりして、放課後も土日にも忙しいため時間が限られています。気持ちを豊かにするために本を読んでほしいと思いつつも、そのための時間がありません。その中で学校としては、朝読書を行っています。それから、ビブリオバトルを図書委員会が中心になって企画しています。それぞれの学年で行った後に、決勝戦ではないけれども、素晴らしい人達を集めて発表を実施しました。優秀賞、最優秀賞の2人には、全校の前で発表してもらいました。少しでも本を読むきっかけになってくれると嬉しいと思う反面、ねりま電子図書館をどうやって子どもたちに伝えるかが、ひとつの課題だと思います。読み放題パックの限られた本の中で同じ本をみんな読んでいる状況になると、ビブリオバトルの面白さが薄れてしまいます。紙の書籍か電子図書館かのどちらかに偏ってしまうことなく、上手くバランスをとってやっていくことが、これからの課題になってくると感じています。

○座長

デジタルとの関わりでは、自己紹介のときにお子様がタブレットで本を借りることをとても楽しみにしている話もありました。そこで、デジタルの本は元々本好きの子が移行して世界を広げる窓口になる傾向があるのか、または、デジタルであることに

よって、活字の本が苦手だった子に新しく利用が広がるのか、どちらの傾向が強いのでしょうか。

○委員

私の子どもは新しいもの好きなのでそれで興味を持ったと思います。元々本は読まないというタイプではないので、読むか読まないかの中では普通ぐらいです。タブレットで本を読めるというのが楽しそうという感じだと思います。

○委員

デジタルで本を読むことになると、本を買いに行かなくても済みますし、自動で返却されるため、返す必要もないので気軽に読める点においては本を読まなかった子達にも身近になると思います。今、IDとパスワードを学校に配布していますので、必然的に自分の手元にタブレットがあって読める環境にありますので、買いに行かなくても借りて見ることができます。本を読まなかった人にとっては身近になるのではないかと期待しています。

○座長

デジタルの絵本に関して、そういったものの中学生、高校生版というか、内容がもう少し中高生にふさわしいものの可能性はございますか。また、子ども向けの本で中高生がどれくらい吸い寄せられるかのお話もお伺いできればと思います。

○委員

その時の研修は保護者の方と職員ばかりで、そういうものを見るのが初めてだったので、みんな喜んで吸い寄せられていました。絵本は子どもだけでなく大人になっても、中高生の心にも響くものがあると思います。中高生向けには、例えば詩集や短歌とかはどうでしょうか。小説のような長いものよりは、短いものの方がそういう効果をつける、想像力の助けになるようなものをつけるということには合っていると思いました。

○座長

中学生や高校生も吸い寄せられて、ますますの図書館の利用に繋がっていただきたいです。中高生事業の可能性も含めて他に何かご質問等ありますでしょうか。

○副座長

自己紹介のときに、出会いが読書を助けるとお話しされていた委員に質問があります。青少年にとってどのような出会いが読書の助けになるか、ということについてお

聞きしたいです。

○委員

私が言った出会いというのは、本に触れるきっかけを与えてくれる人との出会いのことであり、また本当に心惹かれるような本との出会いのことです。小さい頃に本が描き出す世界がこれほどのものなのかということを実感する驚きは、一生ついてくると思います。逆に言うと、中学校まで本を全く読まない人には敷居が高く、途中で本を読み始めるようなことはないと思います。漫画は、絵が情報を半分以上伝えますし、テレビや映画は、音楽が情緒性を補完してくれるので、敷居が低いと思います。すべてを字で表現するということからくる敷居の高さを感じないためには、小さい時に本が楽しいという実感を持つことが大切だと思います。だから、高校生になるまで本を読んだことがない子どもに読ませようとする努力は空回りばかりだと思います。両親や兄弟が本を読んでいる家庭であつたら、普通に読むと思いますし、全然読まずに高校生まできてしまうと決して読みません。その中間でどっちつかずの子に対するアプローチが必要だと思います。

先ほどビブリオバトルの話もありましたが、自分の尊敬するような先生が勧めたり、自分が読んでみて面白かったという実感を持って発した言葉は、子どもに響きます。ビブリオバトルをやるなら、まずはじめに先生がやると思います。信頼されている先生の言葉は圧倒的な力を持ちます。先生何人かに「これなら」という本を選んでもらって、話してもらおう。そういうことをすれば、読書の敷居が低くなりますし、子どもがどの本を読みたくなったかという順位をつけたりすれば、自分もやりたいという生徒が出てくると思います。そういうことも含めて出会いと言いました。全く読まない生徒や、自分で勝手に読むような生徒ではなく、その中間にいるような生徒を引き寄せるようなことをやっていくのが一番いいと思っています。

○座長

今のお話で示唆的だなと思ったのは、私たちは中高生が本を読まないと言いながら、親子で楽しく読み聞かせをするのは小学校の低学年で終わってしまい、親も忙しくなって手放してしまっているのではないかと思います。

話を伺いながら中高生の読み聞かせについてはどういう可能性があるんだろうと思いました。自分で読んだら眠くなってしまうような本を、あえて声を出して読むという、例えばブッククラブのようなイメージになるでしょうか。アメリカだと若い人の中でもブッククラブのような形で感想を言いながら同じ本を取り上げて発言をするという集まりがそこかしこにあるんですが、日本ではあまり見聞きしないように思います。そのあたりと読み聞かせカルチャーがドッキングすると、ひとつ交流の場が生まれて、中高生世代が刺激し合える場が生まれるのではないかと思います。

うのですが、いかがでしょうか。

○委員

中高生の読み聞かせについては難しいです。中高生が読みたいという本は分厚いので、限られた時間の中で読み切ることは難しいです。今の中高生は忙しいので、何度も続けて参加するのは難しいと思います。小学6年生の読み聞かせをすることがありますが、6年生でも読み聞かせを楽しみにしてくれます。あの本読んで、と言ってくる子たちもいますが、やはり長い本が多いです。理想としては、その場で読み終わるものが一番よくて、多くても2～3回で読み終わるのが、上手くいく読み聞かせだと経験上思います。

○座長

先ほどの話にもありましたけれど、やはり可能性があるとするば詩集でしょうか。

それでは最後になりますが次第4のその他についてです。事務局より何かありますでしょうか。

○事務局

特にありません。

○座長

それでは、本日の議題は以上となります。本日は第一回の会議ということで、この会議の役割を把握することができたと思います。今後、練馬区の子どもの読書活動推進のために一緒に良い話し合いを重ねていきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

第13期第二回の会議は、令和8年2月頃に開催予定です。今後、皆様と日程調整のうえ、具体的な日程が決まり次第開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○座長

以上で第13期第一回練馬区子ども読書活動推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。